

『紡ぐ』

2020. 4. / 第1号
発行 教育相談室「あした塾」

しんぶん『紡ぐ』を発行!

これは穴水町だけの話ではありません。私たちの住む穴水町は高齢化・過疎化が急速に進み、近い将来、消滅する可能性の高い集落がいくつもあります。確かに町はいろいろな取り組みをしています。現実はとても厳しいものがあります。

この現実をしっかり受け止め、行政はもちろんで、議会も、そして町民も「穴水町で住みよく、生き生きとした町として存在・存続するため、何が必要なのか、どんな取り組みが考えられるのか、それその立場で知恵を出し合っていくこと」が大事です。そして、それを形にしていく工夫、努力が求められています。

どんな力になるかはわかりませんが、「一石を投じる」思いで、この「しんぶん『紡ぐ』」を発行することにしました。

「紡ぐ」はもともと「糸を紡ぐ」、つまりある素材から糸を作り出すという意味です。『命を紡ぐ』『人生を紡ぐ』『歴史を紡ぐ』『思いを紡ぐ』などの意味を込めて、この「しんぶん『紡ぐ』」を発行していきます。

皆さんの「思い」や「意見」「提案」「情報」

などをお寄せください。その中をもちに紙面を充実させていきたいと思っています。ぜひ、ご協力ください。(教育相談室「あした塾」 庵井元之)



(おたせの春の小川です)

3月13日 穴水で震度5弱!

「災害は忘れた頃に...」です。3月13日未明、能登半島を再び地震が襲いました。震度は震度5弱、穴水では5弱でした。13年前の能登半島地震を思い起こした人も多かったと思います。少なからず被害があった方もいたようです。お見舞い申し上げます。穴水町社会福祉協議会では、能登半島地震の経験と教訓を語りつぎ、災害に対する備えを喚起



(資料写真 地震後のアール・シエール屋根)

する思いで、毎年、Xメールイベントを開催してきました。

今年は残念ながら、新型コロナウイルス問題で、アール・シエールの展示のみとなりました。

おかげを頂いています。

相談投稿情報

は **あした塾** に

「しんぶん『紡ぐ』」への投稿や情報提供、そして相談事は「あした塾」にお寄せください。ご協力をお待ちしています。

教育相談室「あした塾」

住所: 穴水町榎りの197

TEL: 56-1151

FAX: 56-1152

X-mail: mototom67@gmail.com

穴水町には 『待ち』の文化が



(中居島のボラ待ちやぐら)

私たちが住む穴水町には「ボラ待ちやぐら」「イサガ漁り」に代表されるように、『待ち』の文化が根強くあるように思います。「ボラ待ちやぐら」も「イサガ漁り」も穴水町を代表する風物詩でもあり、時間がゆっくり流れるかのやうな能登の風土を表している風景です。

「我慢強さ、や」に豊かな、を象徴していると言えそうですが、「流石にやせる着極的な生き方」とい言えます。毎日の営みを考えたとき、『待ち』のペースがいいのかということを感じることだと思えます。総人口に占める65歳以上の割合・高齢化率が珠州市・能登町に次いで県内3番目に高く、14歳以下の年少人口が県内最低の7.3%である穴水町の現状を考えたとき、流石にやせていて、しがたがないで、育ちがよい環境を感じなければいけません。



(いさぎ漁り)

穴水町には文化センター、陸上競技場、大仏庵などがあり、新しくフィットネスジムもできず。交流人口、関係人口などの言葉が飛び交いますが、施設を作れば自然と人が集まるわけではありません。『営業努力』、そして『継続努力』を積み重ねることで発展させていくべきです。皆さんの考えをお寄せください。

遠藤、勝ち越えならず

「新型コロナウイルス」の影響を受け、大相撲春場所は無観客の格好で行われました。残念なことに、穴水出身の遠藤は千秋楽の取組相手を散し、勝ち越しはできませんでした。

2月に帰省したときも、体を動かして体調を整えていたというのですが、やはり、直前の平熱の影響はあったと言っています。(本人は言及はしていません) 春場所に期待しよう。大相撲3勝4敗でした。



(5月、正代を破る・北国新聞)

時間は律義

何が起こっても時間は進み、季節も変わり、人は年老いていきます。何をしてもなくても時間は過ぎていきます。

時間は人の営みなど、おたく気にせず、ただひたすら進み続けます。

何を愛するに「動く」はありません。時間への対峙は、なにか「動く」は...